



© Mandarin orange grafting, Taizo Odani, 2023

みかんの苗木の旅 通信 vol.02

みかんコレクティヴ 20230525

コモンズ農園について 01

廣瀬智央

みなさん、こんにちは。苗木はその後順調に育っていますでしょうか？春から初夏に移りつつありますが、みかんやレモンの花が咲いたりし始めている頃だと思います。改めてみかんにまつわること、苗木、コモンズ農園についてなど、みなさんと共有できたらと思い、今号から数回に分けてコモンズ農園のビジョン、コンセプト、内容、ロードマップなどを一緒に考えていければと思います。第一回目は、コモンズという考え方についての共有です。

コモン (Commons) とは何か？

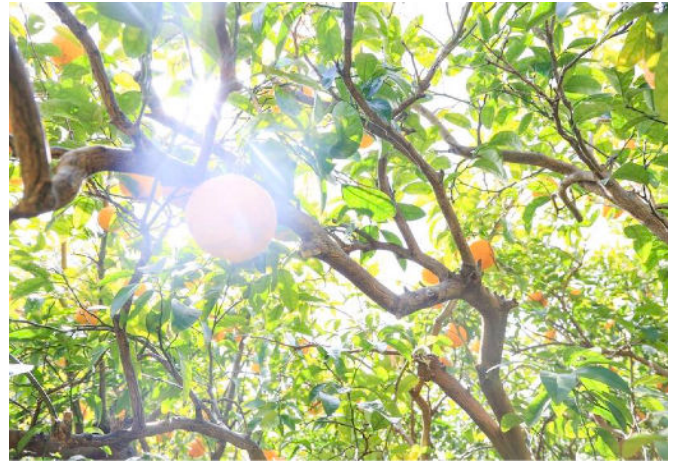
広辞苑によると、入会地（いりあいち）などのように共同で利用・管理される土地。また、コモンズ概念については論者によりさまざまですが、一般的なものとして、共有資源を共同管理する仕組みがあげられます。ここでの重要なポイントは共有すること、人々のつながり方や人々がつながるしくみを作ること、共有資源の保全、とっていいかもしれません。それこそがコモンズ的な考え方といえそうです。



枝が折れて落下したみかん
写真：下田学

なぜコモンズなのか？

そもそも、個人的な生き方や家族単位、気の合う友人だけで楽しく過ごし、仕事では個人所有の土地を確保して有効に使っていただくだけでも忙しく大変なのに、わざわざ、異なる職業の方や見ず知らずの人とつながったり、共有地など面倒に思えることに意味



みかん園に降り注ぐ紀南のひかり
写真：下田学

があるのだろうか？という素朴な疑問をお持ちの方もいると思います。しかし、その疑問こそが「なぜコモンズなのか？」を考えるステップになるのではないかと考えています。ある意味でコモンズ的な考え方は、今ある現状や生業とする農業や仕事、人とのつながりとは全く正反対の位置にあり、息詰まったシステムや限界を乗り越えていくための新しい在り方や精神的な豊かさを得るためのライフラインをより良くしていく可能性を示唆しているともいえます。こうしたコモンズ的な考え方を我々の目指すコモンズ農園や地域に当てはめてみるならば、紀南の地域における共有資源保全とは、人、蜜柑、梅、景観（地域の歴史や文化も含む）の保全と考えることができます。

なぜ紀南でコモンズ農園を始めるのか？

私たちが考える紀南でのコモンズ的な考え方の導入は、コミュニティが集まる施設や空間のような箱物ではなく、ワークショップによって人々の交流を促す、イベントによって人のつながりを促進するなど、人々が共同で活動する場を形成することやそのためのしくみを整備したりすることです。紀南の共有資源として重要なみかんに注目することは、まさにこの考え方の大きな要素の一つで、みかんを通じて歴史や食文化を識り、人々とのコミュニケーションを施していきます。コモンズ農園でのみかん栽培を通じて、人々が共同で活動する場をつくりだし、紀南のコミュニティのあり方を実践します。この地で生きた知の巨人南方熊楠の先駆的な生き方と研究ヴィジョンでもある、南方マンダラに通じる道へとなるでしょう。

庭にレモンの樹を植える

下田 学

みなさん、こんにちは。
紀南アートウィークの下田です。

皆さんのお家の苗木たち、ご機嫌いかがでしょうか？ 我が家に預かっている苗木は、この冬の間に葉っぱがほとんど落ちてしまい、かなり心配していたのですが、最近花芽のようなものがふつふつと出てきて、何とか無事に冬を越えられたのかなとほっと胸を撫で下ろしています。



芽が出始めた『苗木の旅』の苗木 写真：筆者



さて、先日我が家の庭にレモンの木を植えました。みかんコレクティブやってるんだから、そこはみかんでしょう！、と怒られてしまいそうですが、大きな意味で柑橘ということでここはご容赦ください。(笑) というのも、庭にレモンの木を植えるのはずっと憧れだったのです。(とはいえ借家なので、自分のものとは正確には言えない気もしますが・・・)

以前から我が家の食卓ではドリンクや料理で結構レモンの出番が多く、皮も使うことが多いため、今回は無農薬の苗木が良いなと思ったのですが、実は、これがなかなか見つからないもので。ネットや近所



レモンの苗木を庭に移し替える
写真：筆者

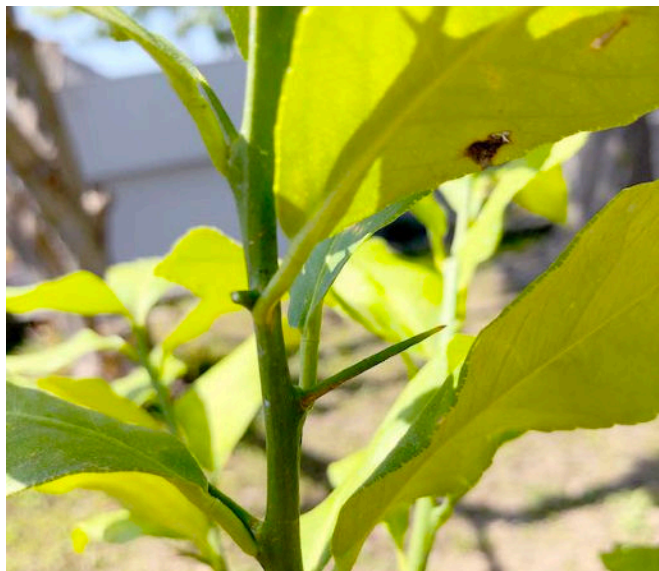
のホームセンターなど様々なところを探してみましたが、意外というか、無農薬の苗木はメルカリにけっこう出品されていました。個人で栽培されているのかな？というのも多く、しっかり写真も掲載されていたものの、苗木のコンディションが読めないのがどうなのかな、と思ってしまい、結局いろいろ探した揚げ句、幹が太そうでしっかり育ってそうに感じた苗木専門店の苗木をネットで買うことにしました。そちらは残念ながら無農薬ではなかったのですが、そのうち徐々に抜けていくという話があったのと、今後は特に薬剤も使う予定はないので、無事に果実がなった際には皮まで安心して使えるかなと思っています。

品種に関しても、今回いろいろ調べてみたのですが、最終的に選んだのは『リスボンレモン』という、一般的なレモンとしてよく見かけるスタンダードな品種のレモンにしてみました。苗木はポットの状態が届いたものを庭に植え替えるので、そのやり方もネットで調べたりしながら、決して畑用の土地ではない庭の一角の土を掘り起こし、多少の土づくりをしてみたり、たくさんの小石を避けたりながら、何とか無事に苗木を植えることができました。

樹を一本植えるのに、わざわざ取り寄せたり、いろいろ大げさだなあと感じる方もおられるかもしれま

せんが、借家の庭なのであまり勝手に植えまくるわけにもいかず、そうなる一本をしっかりと育てていきたいよねってことで、苗木を探すところから妙に力が入ってしまいました。

ところで、今回の中でちょっと意外だったというか面白かったのが、レモンって結構しっかりとしたトゲがあることです。まだ若い苗木の状態でも1~2cmくらいの立派なトゲがあるので、これが成長していくと、かなり大きなトゲになりそうです。栽培の際に手が痛そうなのはもちろん、風で枝や葉っぱ同士が擦りあったときに、そのトゲで傷がつき、そこから病気になってしまうようで、可能な限り切っておいた方が良さそうということでした。おそらく外敵から身を守るためのものであるはずが、自らのトゲで自らを傷つけ、病気になったり亡くなってしまうというのは、どこか意味深いというか、不思議な気がしますね。



レモンの苗木のトゲ
写真：筆者

1本ずつ丁寧にトゲを切り、見よう見まねで少しだけ剪定をし、ひとまず植え替えは完了。それから数日。日当たりも良く、届いた時より枝葉ものびのびと広がってきたような気がします。

おそらく2年目の苗だったと思うので、果たして今年は果実の収穫できるかわかりませんが、これからの成長がとても楽しみです。去年も庭でいろいろ野菜は作っていたのですが、こうやって果樹を植えてみて感じたのは、時間のかけ方、捉え方が全然違う



無事に植え終えたレモンの苗木
写真：筆者

なということです。数か月のうちに成長、収穫し、シーズンが過ぎれば単年で枯れていってしまう野菜たちと違い、樹木は数年かけてその成長と向き合う感じというか、そういったところがとても面白いですね。

となると、ずっと『レモン』と呼び続けるのもどこか寂しいので、名前を付けてあげるのも良いかもしれません。例えば、リスボンということで『ペソア』とか。ペソアというのは、フェルナンド・ペソアというリスボン生まれのポルトガルを代表する詩人です。ぼくはペソアの詩自体にはほんのちょっとしか触れたことは無いのですが、そのペソアのことを世に広めたイタリアの小説家、アントニオ・タブッキという人が大好きで、勝手な親近感を抱いているのです。しかし、名前を借りるんだったら、こころでちゃんとペソアの詩を読まなくては、ですね。(笑)

機会あれば、また我が家の『ペソア（仮）』のその後をお伝えさせていただきますね。それでは。



下田 学

1980年生まれ、兵庫県西宮市出身。5年前に和歌山県紀南地域に移住し、地域の多様なヒト・モノ・コトを繋ぎながら様々なプロジェクトを行っている。紀南アートウィークでは事務局長として、企画から運営までの全般に携わり舞台裏を支えている。

柑橘類おすすめの図書案内

Voi.1

藪本 雄登

『オレンジの歴史』クラリッサ・ハイマン（著）、
大間知知子（訳）原書房、2016年出版

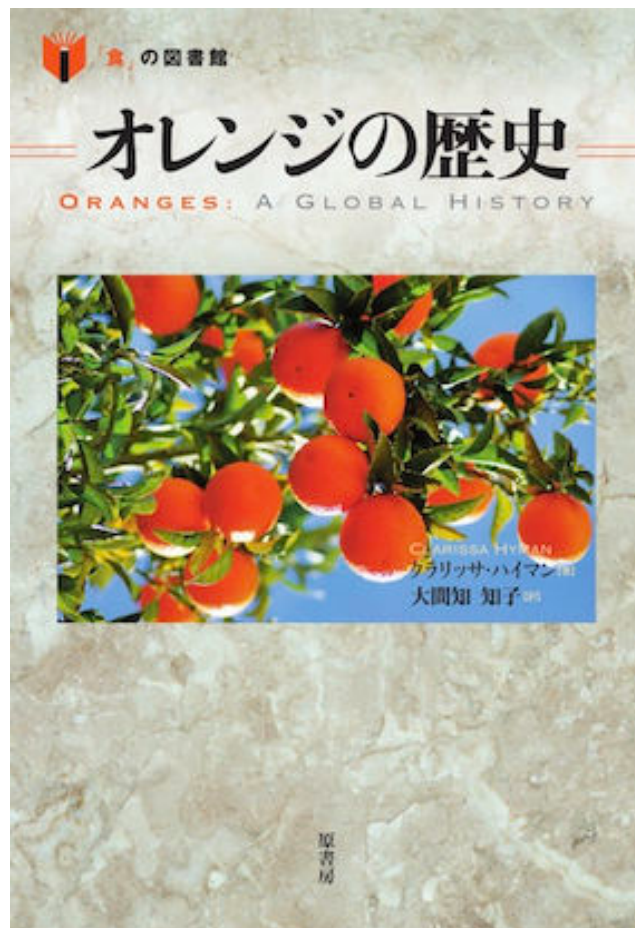
クラリッサ・ハイマン(Clarissa Hyman)は、果実と旅に魅了されたイギリス人ライター。みかん/オレンジは、太陽の象徴。甘くて美味しい。エキゾチックな富の象徴。そして、聖母マリアのシンボルであり、芸術家の靈感の源だった。みかん/オレンジは、おそろしく多義的であり、それらの理由を歴史的に丁寧に紐解いていく。オレンジは、歴史的に、アジアで生まれた植物であり、ヒマラヤの山塊で圧倒的に多様な種類を生み出した。その後、なぜオレンジは、大航海時代を経て、アジアから世界中に伝播したのでしょうか。驚くべきことに、オレンジは人間を使役して、世界に広がっていく。そして、日本の「鏡餅の上のみかん」、世界の「オレンジ祭り」等の祝祭、信仰、絵画やデザインの中の「オレンジ」等、みかん/オレンジと人間の「こころ」は、深く密接に関わっている。本書は、その謎を紐解いてくれる！！みかんやオレンジ等の柑橘好きの必読書！

*今号からディレクター藪本氏がおすすめる図書をご案内するシリーズ「柑橘類おすすめの図書案内」がスタートします。

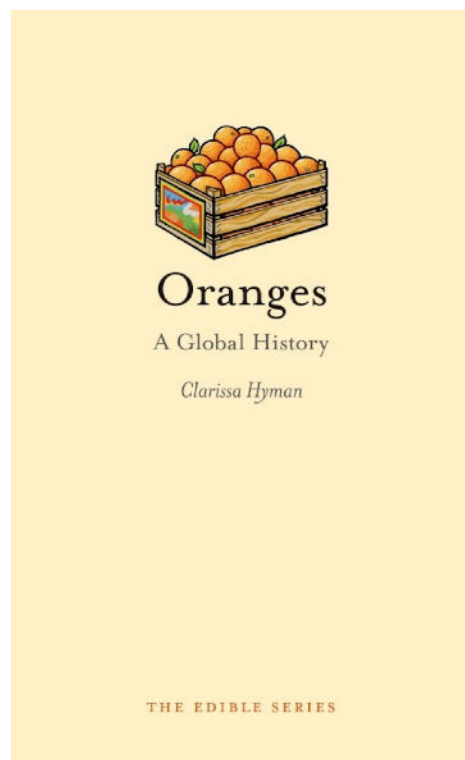


藪本 雄登

紀南アートウィーク実行委員長。十数年に渡り、カンボジア、ラオス、ミャンマー、タイ等に居住し、業務の傍ら、各地のアーティスト、キュレーター、アートコレクティブ等への助成や展示会の支援を行っている。現在、アジア太平洋地域の神話、伝説、寓話や民俗等に関心を持ち、人類学とアートについて研究を行っている。



日本語版 © 2016 原書房



英語 原書版 © 2013 Edible

小谷 大藏

苗木の旅の里親の皆さん、こんにちは。紀南アートウィークでトークをさせていただきました、小谷です。

朝夕の寒さは残るものの、日中はTシャツ1枚で過ごせるほどの季節になってきました。みかんも新芽が見え始め、おまけに雑草もスクスク育っています。

この時期は、地温を高めてみかんの成長を促したいのと、みかんの幹に穴を開けて木を枯らせるカミキリムシ予防のために、雑草処理が必須なのです。平地、斜面、段々畑、草刈り機を抱えて駆け回っています。腰痛、肩こりとは一生のお友達ですね。

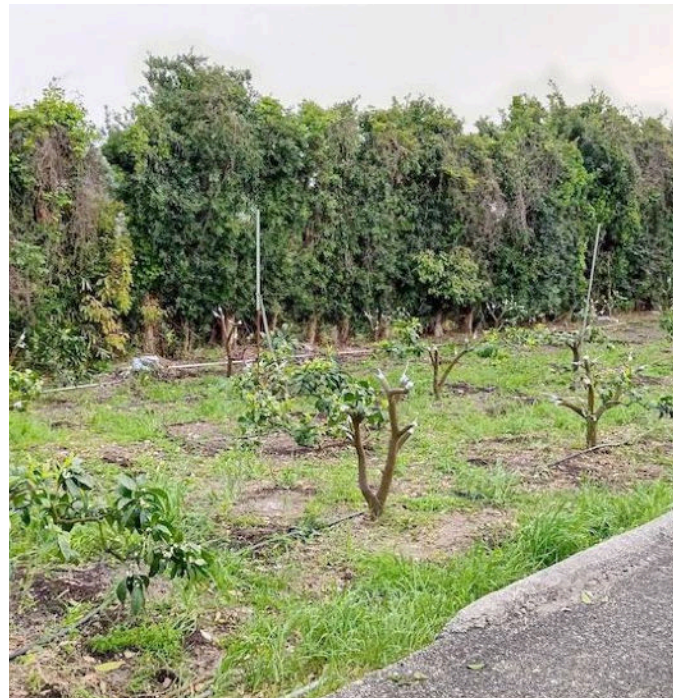
さて今日は、みかんの接ぎ木をしています。みかんコレクティブでも接ぎ木の事にふれていましたが、接ぎ木って凄いです。今まで栽培していた、Aのみかんの枝を切り、10cmほどに切ったBのみかんの枝を、切り口同士くっ付ける。

ざっくり説明するとこんな感じなのですが、数年するとBの実がなるんです！凄いですね！えらいもんですね！誰が考えたんでしょうね？



みかんの接木
写真：筆者

接ぎ木の利点は、成長させたAの木に接ぐ事によってわずか2、3年でBの実が収穫出来るということです。苗から植えるのと比べると凄く早いです。収穫の途切れが少なくなるので、利益に繋がります。しかし欠点もあって、Aの枝の大半を切って接ぐの



小谷さんのみかんの園地
写真：筆者

で、木が疲れて無理をさせます。さらに今までAを育てていた年数があるので、みかんの寿命から考えて、Bの収穫出来る年数が短くなります。苗木で植えると、寿命は一般的に30年から40年くらいなので、木を疲れさせずに維持したとしても40年-Aを育てた年数=Bの収穫年数という感じになります。(おそらく)



みかんの接木
写真：筆者

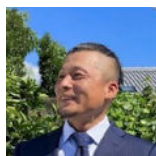
編集後記



荒廃園地を再生して果樹の種目を増やすなどし、積極的に園地の拡大を図っている。小谷さんのみかんの園地
写真：筆者

悩むところですが、技術としては凄く面白いです。いつか、Aの木にBもCもDもEもFもGも接いで、1本で何種類もの柑橘を収穫出来る木を作りたいと思っています。

それはそれとして、今年も太陽の光をたっぷり浴びた美味しいみかんを頑張って作っていきます。農家としてはまだまだ駆け出し。皆さんと一緒にみかんの事を学んでいけたら良いなと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。



小谷 大蔵

機械いじりが好きで工業高校へ。その後カウンセラーの道を志すも、JAの荷受けやガソリンスタンド、コンビニ、ホテルの仕出し、土産物の製造工場、廃ビルの解体、タイヤ交換専門店、ラウンジのボーイ、などの様々職種を経て9年前から実家の農業を継ぐ。当たり前のことを丁寧に、誠実に。働く人にも自然にも持続可能な農業を目標に日々を実践中。

「みかんの苗木の旅通信」の2回目の配信です。表紙は地元みかん農家の小谷さんの接木の写真です。小谷さんには、みかん農園で実験中の接木のお話を寄稿いただきました。コラムは、スタッフの下田さんからです。憧れであったレモンの木を庭に植えるエピソードを寄稿いただきました。早く実がなるといいですね。

みかんレターでは、近い将来苗木の木を植え替えていただく、コモンズ農園についてのビジョンや役割、農園の特性などについて、今号より数回に分けて、みなさまと共有していけたらと考えています。

苗木の木の里親のみなさま、コモンズ農園に関心を持たれて参加を考えていらっしゃる方々、みかんを愛するみなさまとの交流やコミュニケーションを図るためのツールが、不定期発行の「みかんの苗木の旅通信」です。コモンズ農園が実際に動き出すまでにもう少し時間がかかりますが、これからも、みかんの旅にお付き合いください。

この通信へのご意見やご提案、ご質問等ありましたら下記メール宛に気軽にお寄せください。

みかんの苗木の旅 通信 vol.2
編集：廣瀬 智央
発行：みかんコレクティブ
発行日：2023年5月 25日
infobox@milleprato.com